

医学科

●学科の教育理念と教育目的

医学部の基本理念は「患者から学び、患者に還元する教育、研究、医療」です。これは、「医療人は生涯にわたって病める人の身になって病苦と取り組み、人々の健康と福祉に貢献する」という精神を含んでいます。

医学科においては、学部の基本理念に基づき、我が国における医学水準の向上を図り、その成果を国民の保健衛生及び医療に正しく反映させるとともに、地域社会に貢献することを目的としています。地域医療を含む日本の保健・医療・福祉に広く貢献できる人材の育成を目指し、一般入試に加えて、学校推薦や自己推薦などの様々な入試方法も採用しています。

●学科のディプロマ・ポリシー(学位授与の方針、卒業時に必ず身につける能力)

1. 知識・理解

- 1-1) 医師としての専門分野の学問内容の知識を修得している。
- 1-2) 自然科学にとどまらない医療人としての幅広い教養を身につけている。

2. 思考・判断

- 2-1) 分子レベルから集団レベルまでの生命現象を解明する適切な方法を指摘し、明らかとなった現象を簡潔に表現して第三者に伝えることができる。
- 2-2) 患者と家族の身体的・心理的・社会的な健康状態および疾病の状態を把握し、情報を総合することによる適確な判断に基づいて、必要な行動を示すことができる。

3. 興味・関心

- 3-1) 社会の医療ニーズの変化に対応して、適切な方法で最新の医学知識や医療情報を収集・整理し、生涯を通して自らを高めることができる。

4. 態度

- 4-1) 都市部から辺地までを包含する地域において、患者中心の医療の担い手となる医師として責任をもった行動をとることができる。
- 4-2) 医学の進歩のために基礎・社会医学と臨床医学との両面での研究が不可欠であることを認識し、自らも研究マインドをもって医療を行うことができる。

5. 技能・表現

- 5-1) 基礎的な医療行為を患者にも自らにも安全に実施することができる。

5-2)患者・家族や保健・医療・福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーション(簡単な英語によるものを含む)をとり、チームの一員としての役割を果たすことができる。

●学科のアドミッション・ポリシー(学生受け入れの方針, 入学時に問われる能力)

<知識・理解, 思考・判断>

1. 入学後の修学に必要な基礎学力を有している。

1-1)[全ての入試枠]高等学校で履修する五教科(国語, 数学, 理科, 社会, 外国語)の広範な知識を有している。

1-2)[推薦入試]長文の英文や和文の文章を理解し, その内容およびそれに関連した事項について, 受験時までの学習や経験を踏まえつつ自らの考えを日本語で 適確に表現できる。

1-3)[前期試験]高等学校で履修する数学および理科(物理, 化学)について深く理解していると同時に, 長文の英文を読んでその内容を理解することができる。

1-4)[後期試験]医学・医療や生物学に関する英文を読んで理解し, その内容に対して自らの考えを日本語で簡潔に表現できる。

<興味・関心・意欲, 態度>

2. 人間が好きで, 生命に対する倫理観がしっかりしている。

3. 医学・医療に対する意欲や関心度が高く, この分野に貢献したいという目的意識と情熱を持っている。

4. 入学後も, 生涯にわたって自己啓発・自己学習・自己の健康増進を継続する意欲がある。

<技能・表現>

5. 幅広い人間性, 柔軟性と協調性を有し, 周囲の人と良好な関係を保つことができる。

6. 自分の考えや行動に責任を持ち, それを相手に明確に示すことができる。

※医学科学士編入生(2年次編入)のアドミッションポリシー

<知識・理解, 思考・判断>

1. 入学後の修学に必要な基礎学力を有している。

1-1)大学の教養教育課程レベルの自然科学系科目について, 十分に理解し知識を有している。

1-2)大学・大学院等での自らの学修や研究の成果を, 簡潔かつ具体的に示すことができる。

<興味・関心・意欲, 態度>

2. 人間が好きで, 生命に対する倫理観がしっかりしている。

3. 医学・医療に対する意欲や関心度が高く, この分野に貢献したいという目的意識と情熱を持つ

ている。

4. 入学後も、生涯にわたって自己啓発・自己学習・自己の健康増進を継続する意欲がある。

<技能・表現>

5. 幅広い人間性、柔軟性と協調性を有し、周囲の人と良好な関係を保つことができる。

6. 自分の考えや行動に責任を持ち、それを相手に明確に示すことができる。

●学科のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針, カリキュラムの特徴・特色)

医学科では、国際水準(グローバル・スタンダード)に対応したカリキュラムを構築するために、平成 28 年度の新入生から新しいカリキュラムに移行することになっています。新カリキュラムでは、臨床実習を4年次の冬から行い、実習内容を量的にも質的にも向上させます。またそれに先立ち、平成 27 年度から、専門教育の授業時間を1コマ 90 分から 60 分に短縮して学生の集中力を高めると同時に、日々刻々進歩している医学知識の増大に対応します。

入学当初から1年間のカリキュラムに、特に重点を置いています。「新入生セミナー」では、大学で学ぶとはどういうことか、自学自習するとはどういうことかを、医学・医療に関わる題材を用いて、グループメンバーや教員とともに考えます。医学の基本となる解剖学や生理学等の医科学の基礎を少しでも早く身に付けるために、1年生の4月から「基礎医学展望」を受講します。この科目は高等学校での学習から医学専門教育への橋渡しを行うものです。もちろん1年次には、城北キャンパスで他学部の学生とともに学ぶクラスもあります。

2年生では基礎医学系科目を広く学び、3年生では臨床医学の基礎を、4年生では応用的な臨床医学各科目を学びます。4年生の終わりには全国统一学力・技能試験である共用試験(CBTとOSCE)を受け、合格後は5年生から始まる臨床実習に参加します。

5年生では大学附属病院の全ての臨床科での臨床実習が始まります。また県内各所の病院に設置された愛媛大学サテライトセンターでも臨床実習を行い、地域医療の最先端の現場を経験します。5年生の冬から6年生の夏までは、それぞれの学生が希望した臨床科や病院でさらに高度な臨床実習を行います。愛媛大学では6年生全員が総合学習棟の部屋を使い、各自専用の机で仲間と励まし合いながら学ぶことができます。